



学校だより 8月号

泉区緑園五丁目28番

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuenhigashi/>

TEL (811) 6710

「子どもたちの健闘」

学校長 副島江理子

「おはようございます！」登校してくる子どもたちは、毎朝元気な声であいさつをしています。不順な天候が続いた7月でしたが、子どもたちのあいさつに、憂鬱な空もかき消されるかのように爽やかな気持ちになれます。学校再開後、自分から大きな声であいさつができる子どもたちが増えました。しっかりと目を合わせて笑顔であいさつをしています。思い起こせば、去年の学校保健委員会で「あいさつをしたい気持ちはあるけど、朝は元気が出ないから・・・」と自分たちの思いを出し合い、「あいさつ運動を校内から地域にも広げたい！」と当時の運営委員長を中心に行動を起こした矢先に、学校が休業になったのです。長いブランクはありましたが、子どもたちは大切にしなければいけないことを忘れずに、行動に移すことができていることに感心します。

学校再開第3期。このように子どもたちには「忘れずに」できていること「新しく」できていることがたくさんあります。給食時は、全員前を向いて無言で食べており、その静けさに私の方が戸惑いますが、子どもたちはメリハリをきちんとつけて取り組んでいます。給食の残量もかえって減りました。その分、休み時間は解き放たれたように元気いっぱいに遊んでいます。休業期間も含め、行動が規制されていた4か月間、巷間でも子どもたちの体力低下が心配されました。でも、休み時間に待ちかねたように校庭に出て走り回る姿、また、学校図書館で好きな本を読んだり、思い思いに自分の好きな遊びに没頭したりする姿に、子どもたちが「心身の体力」を十分に持ち合わせていたことを実感しました。

また、7月にやっと始まった委員会活動では、中休み、嬉々として当番活動に取り組む高学年の姿が見られます。各学級で係活動も始まり、学級新聞には、自分たちにできる「コロナ感染予防」の記事も書かれています。学校のあちらこちらに、子どもたちの生き生きとした息吹が感じられます。

子どもたちはこの状況下にあって、不自由を感じつつも、それに対する弱音を吐かずに、学校生活に今までと変わらない姿勢で臨んでいます。そして、学校再開後のいろいろな出会いや新しい取組を楽しんでいます。その柔軟性や創造性にはこちらが勇気づけられています。未来を生きる子どもには「生きる力」が備わっていることをつくづく感じます。そしてその力を伸ばしていかなければいけないと改めて思います。

あつという間に明日から夏休みです。きっと子どもたちは、ご家庭ではいろいろな不安や不満も口にしてきたことでしょう。保護者の皆様の絶大なるご支援があったからこそ、子どもたちはこの難局を心身ともに元気に乗り切ることができました。保護者の皆様のご理解とご協力に心より感謝を申し上げます。ぜひ、全力でがんばったお子さんの健闘を称えていただきたいと思います。

例年とは違って短く制約も多い夏休みです。さらには梅雨明けも待たれますが、子どもたちには、束の間の夏休みを青空の下で楽しくのんびりと過ごしてほしいと思います。

地域の皆様には、日頃より子どもたちの見守り活動にご協力をいただきまして本当にありがとうございます。今年は、子どもたちが楽しみにしている夏祭りもすべて中止となり、地域の一員としての活動も大幅に制限されてしまい残念です。せめて子どもたちが地域の方々とあいさつを交わし、つながりを感じる夏休みであってほしいと願っております。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

再開後も、厳しい状況下での学校生活が続くと思われますが、子どもたちの健闘に報い、個々の力を伸ばしていけるように、私たち教職員も一層の配慮と工夫を重ねていきたいと思っています。